

仙台東部高架橋整備事業

受賞機関 国土交通省東北地方整備局仙台工事事務所

はじめに

仙台東部道路は、総延長24.8kmの自動車専用道路で、東北自動車道、三陸自動車道、仙台北部道路及び仙台南部道路と一体となって、仙台都市圏を取り囲む延長約60kmの自動車専用道路ネットワークを形成している。また、東北各地と東北の国際交流拠点である仙台空港や仙台塩釜港とのアクセスを強化し、地域経済の発展に大きく貢献することが期待されている。

仙台東部高架橋は、仙台東部道路の仙台東IC～仙台港北IC間において建設された、道路橋では東北最長となる延長4,390mの連続高架橋である。

事業概要

路線名：仙台東部道路(仙台東IC～仙台港北IC)

事業期間：平成8年度～平成13年度
(平成13年8月1日開通)

事業延長：5.2km(橋梁延長4,390m)

事業費：約520億円

事業の特徴

仙台東部高架橋の周辺は、商業を中心として市街化が進行しており、また、高架橋は交通量の多い(主)仙台塩釜線の中央分離帯を利用し整備されることから、一般的な橋梁と比べて至近距離から見上げられるため、景観には特に、配慮する必要があった。このため東北地



仙台東部高架橋

方整備局が創設している「美しい国土づくりアドバイザー」制度を利用した景観検討を行っている。

一例をあげれば、当高架橋は、支間割りの関係から鋼桁と鋼箱桁が混在しており、このような場合、一般的に構造特性から主桁配置が同一にならないが、鋼桁の側面にブラケットを採用することで、鋼桁と鋼箱桁との主桁配置を揃え、違和感のない滑らかな連続性を創出している。

また、コスト縮減にも力を入れ、上下線(4車線)を一体構造することで、分離構造と比較し約1割の縮減を図っている。

施工に当たっては、(主)仙台塩釜線の片側3車線のうち、中央分離帯寄りの1車線を規制する必要があったが、インフォメーションセンターを開設し、事業の目的や必要性、工事状況等をPRし、ご理解をいただきながら事業を行っている。

本事業の完成により、東北各地域から仙台空港や仙台塩釜港への所要時間が短縮されるとともに、市内一般道路の交通渋滞が緩和されている。



側面ブラケットの配置により主桁配置を統一

受賞賛助会員 アイサワ工業(株)、石川島播磨重工業(株)、大林道路(株)、川崎重工業(株)、川崎製鉄(株)、川田工業(株)、駒井鉄工(株)、佐伯建設工業(株)、(株)サクラダ、佐田建設(株)、新日本製鐵(株)、住友重機械工業(株)、大成ロテック(株)、高田機工(株)、地崎道路(株)、(株)東京鐵骨橋梁、トピー工業(株)、日本橋梁(株)、日本鋼管(株)、日本車両製造(株)、日本鉄塔工業(株)、日本鋪道(株)、(株)橋本、(株)福田組、福田道路(株)、古河機械金属(株)、(株)本間組、松尾橋梁(株)、丸紅建設(株)、三井造船(株)、みらい建設工業(株)、三菱建設(株)、三菱重工業(株)、りんかい建設(株)、若築建設(株)